

平成29年度取組み進捗状況一覧

資料2-2

団体名	神奈川県医療課	厚木医師会	厚木市立病院	訪問看護ステーションもみじ	訪問看護ステーション ふたばらいふ
課題区分	—	体制構築、コーディネート、人材育成、その他	体制構築 情報集約	人材育成 体制構築	人材育成
(1)項目・内容	厚木地域小児等在宅医療連絡会議の実施 「厚木地域の関係機関が地域の課題や取組みについて意見交換を行う」	—	8 体制構築 退院前のケースカンファレンス、情報交換 17 情報集約 「安心ノート」を参考にマイサポートブックの編集と利用方法を検討	12 人材育成 小児訪問看護受け入れステーション増にむけた勉強会 6 医療的ケアに対応できる施設の拡大	13 人材育成 小児訪問看護をテーマとした研修会 小児受け入れ態勢をつくるため、勉強会（症例検討）や交流会を企画
(2) 29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	・第2回厚木地域小児等在宅医療連絡会議の実施（30年2月28日）	平成29年度厚木地域（厚木市、愛川町、清川村）在宅医療連絡会を11月28日開催した。（別紙1） 新たに小児科医2名（出席は1名のみ）が加わった。厚木地区の小児等在宅医療のお子さんの実態を再確認。座間養護学校からサポートブック作成に関する提案があった。会の開催は2年目となり、さらに連携が深まり、新たな課題も話し合われた	退院前には、訪問看護ステーションのみではなく、障がい福祉に関係する部署への参加を呼びかけていくことができるということがわかったので利用できている。 外来や病棟で活用できるようブックの周知、内容について意見を確認し、看護師としては活用できるという意見であった。	厚木市医療福祉連絡会訪問看護部会での講演を実施 さらに、担当者と話し合いをし、平成30年度勉強会の定期開催を企画予定 医療的なケアのあるお子さんの児童発達支援事業所受け入れ検討する場を、障がい福祉課、福祉総務課、関係事業所で4回程度会議を実施していた	・小児を受け入れているステーションへ困っていることの聞き取り、会議への提案を行いました。 ・前年度訪問看護部会で進んでいた小児を受けている訪問看護ステーションのスタッフを対象とした研修や交流会を定期的に開催することを企画しています。
(3) 取組みを進める中で見えてきた課題	・医療課による事務局運営は29年度に終了するため、30年度以降の運営体制をどのようにするとよいか。	・医療コーディネーターの要請が喫緊の課題。研修の機会が少ない。 ・医療機器を装着しているお子さんの教育環境について。登下校のバス、看護師の配置の問題	障がいがあると確定していない場合、保護者へサービスへの案内など介入することが難しいと感じる。→ 外来フォローの確認をする。	各訪問看護ステーション現場意見からは、制度や社会資源、訪問時情報提供していくことが出来るように各関係機関同士の勉強会の開催の必要性を感じている等の声も聞かされている。	ステーションは、小児を受け入れているステーションと受け入れているステーションに2分化されている。小児を受け入れているステーションでも受け入れているケースが少ない為経験の積み重ねがされず、また相談先も分からない場合もある。 また小児は2つのステーションで一緒に訪問しているケースが多い。管理者同士は話をしている、スタッフ同士での交流は乏しい。定期的に交流会や研修を行うことで、情報共有やケース共有、困ったときの相談の場を作り上げることができれば良いと感じた。
(4) 課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	—	教育委員会 神奈川県：県として医療機器を装着しているお子さんが登下校のバスに乗れるようにする、送迎車を配置する等検討していただきたい。養護学校卒業後の施設等を用意していただきたい	—	来年度、地域で暮らす子ども達を支援していくために関わる関係機関等との定期的・継続的な勉強会開催の企画 障がい福祉課・ゆいはあと・厚木市医療福祉連絡会訪問看護部会	最初は小児を受け入れている訪問看護ステーションを対象に研修、交流会を企画していきたいと思っています。講師依頼のほか、ゆくゆくは、他機関も含めた交流会にも発展させて行ければよいと思っています。その際は、関係機関の皆様にもご協力頂ければと思います。
(5) 来年度以降の取組み	他地域での会議体の立上げ 実数調査 など	・来年度以降も、厚木地区小児等在宅医療連絡会の開催を続ける。 ・講習会を開催し、小児在宅に対する理解、知識、技術を深めると共に、一人でも多くの小児等在宅医を増やしたい。 ・医療コーディネーターの養成	受診や入院時、看護師がマイサポートブックから情報収集ができるように活用できるよう働きかけ、周知したい。	医療的なケアのあるお子さんの受け入れる事業者は限られており、事業所からの看護職員が看護提供する医療連携体制や訪問看護から児童発達支援事業所や保育所訪問の検討等も必要となるため、医療・福祉間との連携を継続していく。 また、児童発達支援事業所だけではなく、同時に生活介護の枠も地域で考えることは必須であるが、いずれにしても事業所看護師配置が困難である、離職があるため安定して受け入れが難しい現状から、厚木市医療福祉連絡会訪問看護部会や保健福祉事務所等や健康づくり課等と協力し、看護師の人材育成や学びの場・相談し合える関係作りの体制をつくっていく。	現在企画している、小児を受け入れている訪問看護ステーションを対象とした研修を具体的にやっていきます。

平成29年度取組み進捗状況一覧

団体名	厚木保健福祉事務所	厚木市健康づくり課①	厚木市障がい者基幹相談支援センター (ゆいはあと)	厚木児童相談所
課題区分	体制構築 コーディネート	体制構築 普及啓発	体制構築	資源把握
(1)項目・内容	<p>①「1 体制構築 関係機関が情報共有する会議の定期的な実施 *厚木医師会開催」</p> <p>②「8 体制構築 退院前のケースカンファレンス、情報交換」</p> <p>③「9 役割に応じたコーディネート機能の確立」</p>	<p>1 体制構築 会議において顔の見える関係づくりやコーディネーター機能を明確化する</p> <p>9 コーディネート こどもの成長とともに関わる機関が変化していくことから、成長段階に合わせた標準的なコーディネーター機能を関係機関が共通認識することで、コーディネーターの明確化を図る。</p> <p>20 普及啓発 障害者サービスだけでなく、育児支援サービスの利用の推進を図るため、関係機関へ障害児支援の必要性について普及啓発を行う。</p>	4 放課後等デイサービス連絡会の実施	16 資源把握 厚木地域の福祉資源調査
(2) 29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	<p>①③ 医師会主催の連絡会議の事務局を担当 (H29年度 H29.11.28 実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 厚愛地区の医療的ケア児の実態把握 ・事例を通してライフステージに応じたコーディネーターや在宅医療の連携について検討 (別紙1) <p>② 北里大学病院(厚木市ケース)、北里東病院(厚木市ケース)、東海大学病院(厚木市以外のケース)、成育医療センター(厚木市以外のケース)の退院前カンファレンスに、訪問看護ステーション、市町村関係者、当所保健師等、地域の支援関係者が参加した。</p>	<p>体制構築：まずは、庁内関係部署における体制づくりをするため、「医療的ケア児の支援体制打合せ」を実施し(現在までに2回実施済)支援体制の構築を図っている。</p> <p>(他、前回同様)</p>	<p>医療的ケアが必要な児童が利用できる社会資源がなく、困っていることを連絡会を通じて呼びかけ、個別ケースごとではあるが、受け入れの相談ができるようになった。</p>	<p>これまでの記録等から、厚木市の重症児が利用している事業所、利用頻度等を抽出してみている。</p>
(3) 取組みを進める中で見えてきた課題	<p>医療機器装着児(特に人工呼吸器・吸引等、生命維持に電源を必要とする児)の災害時支援について、別の会議において市町村担当課と共に取り組んでいるところです。</p> <p>現時点では、医療的ケア児者の個別計画(避難行動要支援者の避難行動支援のための個別計画)の作成にあたり、「市町村の様式(基本)+医療看護の支援情報(訪問看護ステーション等)の様式」をセットにして、ケースの枕元等に常備していくことになりました。</p> <p>また、「要電源」「医療機関に避難希望」等の個別のニーズも、市町村の様式の中に書き込んでおくことで、発災時にできるだけ対応していけるように準備することになりました。</p>	<p>小児等在宅医療ケア児がどのような課題を抱えて地域で生活をされているかが、どのようなサービスを望んでいるのかが、十分わかっていない現状があるため、引き続き関係機関との連携を深め、課題の明確化を図っていく必要がある。</p>	<p>事業所は、医療的ケアが必要な児童の実情について知る機会がなく、また、児童の家族は事業所の体制や利用方法などについてよくわからず、不安を抱えていたり、利用につながらないのではないかと考えられる。</p>	-
(4) 課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	特になし (別の会議等で対応中)	<p>在宅医療ケア児が抱える課題の明確化を図るため、困った点や不明な点等を相談し合える、顔の見える関係づくりができるよう引き続き取り組んでいくことが不可欠である。</p> <p>(医療機関・相談支援事業所・訪問看護ステーション・サービス提供事業所等のあらゆる関係機関)</p>	<p>各事業所の情報(ハード面、療育内容、看護師・保育士・ヘルパー等の配置の有無、空き情報)を調べて把握しておき、相談があった時にスムーズに繋げられるように準備しておく。</p>	-
(5) 来年度以降の取組み	<p>① 厚木医師会主催の連絡会議の事務局を担当 (H30年度以降も継続)</p> <p>② 当所管内全体で、小児等在宅医療連絡会議を持ち、管内全体の医療機器装着児の在宅医療および在宅療養におけるニーズへの対応を検討していきたい。</p> <p>③ ケース支援においては、今後も退院前カンファレンス等に出席、退院後の家庭訪問等で、在宅療養への円滑な移行を支援すると共に、生命維持に電源が必要な児を中心に、避難行動支援のための個別計画の立案支援も進めていく。</p>	<p>現在の取り組み内容の着実な実行。</p> <p>新たな課題が明確化した際の、課題解決に向けた取り組み。</p> <p>支援技術の向上のため、引き続き研修等への出席</p>	<p>放課後等デイサービス連絡会を通じて、児童発達支援や放課後等デイサービスの療育の機会が提供できるよう、継続して取り組んでいきたい。</p>	<p>これまで当所が開催してきた「在宅重症心身障害児療育連絡会議」を、県央保健福祉圏域ナビゲーションセンターと県央地区障害福祉サービス等地域拠点と共催のかたちで開催をしていく。</p>

平成29年度取組み進捗状況一覧

団体名	厚木市療育相談センター「まめの木」 (厚木市福祉総務課)	厚木市障がい福祉課①	厚木市障がい福祉課②	神奈川県立座間養護学校①	神奈川県立座間養護学校②
課題区分	体制構築	体制構築	普及啓発	情報集約	人材育成
(1) 項目・内容	1 関係機関が情報共有する会議の定期的な実施 【内容】 ・厚木地域の関係機関が地域の課題や取り組みについて定期的に情報交換を行う ・会議において顔の見える関係づくりやコーディネーター機能を明確化する ・マイサポートブック等を活用し横のつながりを強化する	6 医療的ケアに対応できる施設の拡大 医療的ケアに対応できる医療機関施設を増やすため、厚木市内の医療、福祉関係機関へ協力を要請する。	21 『在宅医療でケアが必要なお子さんの保健・福祉ガイドブック』の関係者間共有 『在宅医療でケアが必要なお子さんの保健・福祉ガイドブック』をより充実させ、対象者及び関係機関へ配布、市ホームページへ掲載する等により広く周知する	17 情報集約 「あんしんノート」を参考に「マイサポートブック」の編集と利用方法を検討 関係機関との引継ぎのための資料作成の負担が大きいため、ライフステージ全般で利用できる対象児専用の「マイサポートブック」の編集と利用範囲の拡大 学校・医療機関・施設・事業所で統一様式を作り多くの関係者間で共有する	14 人材育成 学校内研修の実施 一般教員向けに小児等在宅関係機関やネットワーク、サポート体制に関する研修の実施
(2) 29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	・会議や研修等に積極的に参加する ・マイサポートブックの配布	引き続きニーズの収集、使える制度の拡大について検討していく。	1月下旬に各相談機関と打ち合わせの場を設け、掲載内容について検討していく。	保護者、医療機関、施設、事業所等で必要な情報の項目について、ばさばねっとの「あんしんノート」をもとにしたアンケートを作成、配付。現在意見を集約している段階。今後、集約した意見をもとに「マイサポートブック」の様式について検討していく予定。	現時点では未実施。今年度学校全体における研究体系について整理している。次年度の実施に向けて、校内でこの係が主管し実施するかを検討する。
(3) 取組みを進める中で見えてきた課題	・マイサポートブックの配布機関が広がり、利用者が始めて相談に行く先で、漏れなく配布されることと、その後関わる機関の担当者が活用し携わっていってくれるといいと思います。	看護人材の不足により、利用できる事業所が限られてしまい、新規受け入れ先がなかなか見つからない。	内容や範囲について検討を重ね、わかりやすく、相談場所が見つかりやすいものを作成していきたい。	様々なライフステージにおいて、それぞれのニーズがあるので、最大公約数としての「マイサポートブック」の記載項目をどのように整理していくかが課題である。現在、アンケートを集約しているが、今年度中に、様式案を整理することがスケジュール的に難しい。	—
(4) 課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	—	医療機関、訪問看護事業所、障害福祉サービス事業所、通所支援事業所など。限られた資源の中で、こういった形であれば検討できるなど、連携できることがあれば教えていただきたい。	各相談機関から、どういった相談が寄せられるのか聞いてみたい。	アンケートの回答数が芳しくないため、配付させていただいた関係機関から、回答をいただくとありがたい。 様式案についての検討は、ゆいはあとはじめ自立支援協議会との連携、厚木地域小児等在宅医療連絡会議[地域版]での意見交換等ご協力いただくとありがたい。	校内で医療ケア等に携わる教職員を中心とした研修会の開催を検討している。内容としては、小児等在宅医療に関わる訪問看護や、ホームヘルパー等福祉サービスの内容や、実際の対応状況等に関する講演を、ゆいはあとさんにお聞きできればと考えている。
(5) 来年度以降の取組み	—	重度障害児メディカルショートステイ事業、重度障害者訪問看護支援事業を継続して行う。	ガイドブックの配布及びホームページへの掲載。	「マイサポートブック」の様式案について、アンケート結果をもとに検討、作成する。 厚木地域小児等在宅医療連絡会議[地域版]において、様式について意見交換し、様式案に反映する。	次年度の実施に向け、研修日程を検討する。

平成29年度取組み進捗状況一覧

団体名	総合療育相談センター	北里大学東病院 小児在宅支援センター	神奈川県リハビリテーション事業団	神奈川県リハビリテーション事業団
課題区分	情報集約	普及啓発	体制構築	体制構築
(1) 項目・内容	18 情報集約 相談支援機関向けに情報一覧表を作成 広域的に把握することが必要な短期入所サービス事業所の状況再確認及びレスパイト入院実施医療機関の状況確認を行い、相談支援機関向けに情報一覧表を作成し、情報提供する。	22 利用者本人や医療機関に向けた情報提供	5 体制構築 コアメンバー体制の構築 医療と福祉が密に情報共有でき連携をとれる各専門機関のコアメンバーによる体制を作る。各機関からの情報の集約や発信の拠点とする・保健福祉事務所、訪問看護事業所、基幹相談支援センターが情報共有する場を設け、両親の障害受容のタイミングに合わせて引き継ぐ準備をする	10 コーディネート コーディネーター役の育成方法検討 ケアマネのような業務を障害者総合支援法に基づき、相談支援専門員が関わることができないか検討・医療に精通した訪問看護STと相談支援機関が中心になることが現実的だが、実務的なサポートは各ケースでフレキシブルに行わざるを得ない。事例検討や事例集などを持ち寄る研修会などを企画する。
(2) 29年度の進捗状況について、実績や検討している内容	H27年度に作成した医療型障害児入所施設の短期入所サービスの状況」を更新し、最新情報を提供するために、各施設から提出された内容を取りまとめ中。今後、医療課・障害福祉課と医療機関のレスパイト入院的対応の状況確認をどのように実施できるか検討したい。	活動実績報告を兼ねた見学会の企画開催を検討。	・厚木地域の小児ケースが退院後に在宅生活を行うにあたって、また外来受診や外来リハ訓練に関して、関係機関への情報提供を行っている。	—
(3) 取組みを進める中で見えてきた課題	—	当初3月開催を予定していたが、年度替り後に開催が良いのではとの院内意見があった。	—	まず実践事例を本会や部会等で報告することから始めた方がよいのではないか。
(4) 課題に対する考えうる解決策または関係機関と話し合いたいこと	—	開催時期について見直し、5月頃の開催を予定することにした。	・医師が地域でのカンファレンスに伺うことは難いため、退院時のカンファレンスは当院で行うこととなる。なお、MSW等であれば、地域への派遣が可能である。	次年度以降、厚木地区で連携があるケースがあれば報告していく。
(5) 来年度以降の取組み	—	活動実績報告を兼ねた見学会の企画開催に向け準備を進める。	・地域移行に際して、地域支援者や関係機関との情報交換を継続していく。	・地域移行に際して、地域支援者や関係機関との情報交換を継続していく。